

働く女性の日米ワークショッププロジェクト：二回のワークショップを終えて CGSセンター長 田中かず子

I. はじめに

「働く女性の日米ワークショッププロジェクト」は、デトロイトのウェイン州立大学とICUがプロジェクトの受け入れ大学となり、2004年度から2年間国際交流基金日米センター（Japan Foundation, the Center for Global Partnership (CGP)）の助成を得てはじまった。2005年度には、日本国際基督教大学基金（Japan ICU Foundation）からも助成金を得ることができた。第一回ワークショップは2004年9月にデトロイトのウェイン州立大学で開催し、第二回は2005年7月にICUで開催した。第三回は2006年3月に再度ICUで開催予定であるが、その前に二回のワークショップを振り返り、まとめと展望を報告しておきたい。

II. 働く女性の日米ワークショッププロジェクトの背景：

プロジェクトの目的：

このプロジェクトは、参加者全員にとって利益となるような実用的なプロジェクトと一緒に取り組むことで、(1) 国際的な女性労働者ネットワークを構築し、強化していくこと、そして(2) ネットワークを構成する個々の組織団体自体を強化するという二つの大きな目標をもってはじまった。その実用的なプロジェクトとして、今回は組織のメンバー同士が学びあえる教育マニュアルをつくることにした。

プロジェクトが出発した背景：

特に90年代以降、経済のグローバル化が加速度的に進み、労働市場の規制緩和が進んだことによって、女性の雇用環境が急速に悪化してきた。すでに日本女性雇用者の半数以上が非正規で働いており、近年さらに有期雇用化がすすみ、不安定で低賃金な仕事が増加している。男性もこの影響を受けているが、女性のほうが圧倒的に非正規化の影響が大きい。しかも、グローバル化がすすんだ世界において、女性たちが自分たちの働く環境を改善していくためには、もはや一国内だけでは対処できなくなってきており、働く女性たちが国境を越えてネットワークを広げていく必要性が急速に高まった。そのような危機感が、このプロジェクトの背景にある。

一方国内で日本の女性労働者の組織が直面している問題は、個々の女性労働者が抱える問題を解決することに時間とエネルギーを取られてしまったり、新メンバーの参加が停滞したりして、組織や運動が拡大していかないことである。女性ユニオン東京でも、そのメンバーは250人前後で推移している。働く女性を支援する女性ユニオンや団体などは、既存の労働組合から袂をわかって新しく活動を始めた組織である。それゆえに、活動資金などの資源が脆弱であり、個別の相談に対応する人が特定され情報が偏在し、対等で民主的な関係で出発したはずなのに、組織内に力の不均衡な関係がでてくるようになり、入会者も自分の問題が解決すると退会してしまうなど、民主的な組織作りや組織の活性化が滞りがちな状況に陥っていた。このような状況を打破し、活力ある組織化を進めるための模索が始まっていた。

このプロジェクトは、ウェイン州立大学で教えているハイジ・ゴットフリードさんと、「連帯のインク (Solidarity Ink)」というNPOを立ち上げたライターのアン・ザカリア・ウォルツシュさんが出会い、CGPからの助成金を確保して実現した。そもそものきっかけは、ア

アメリカの労働運動の経験があるザカリア・ウォルツシュさんが来日された時、アメリカにはない形で活動している女性ユニオン東京に大変興味を持ったことにあった。女性ユニオン東京の直面している問題を理解する中で、アメリカの労働運動の教育プログラムを日本で使ってみたらどうか、またアメリカの女性労働者も日本の経験から学ぶことが大きいのではないかと思い立ち、女性ユニオン東京に誘いかけたのだ。女性ユニオン東京の人たちに、彼女の熱い思いを伝えた、02年の暑い夏の日のことを思い出す。

ゴットフリードさんは、当時パートタイムなど女性の非正規雇用化の問題に取り組み、日本とアメリカ、ドイツなどとの比較研究をしていらしたことを知っていたので、私はザカリア・ウォルツシュさんにゴットフリードさんを紹介した。ウェイン州立大学は、全米でも有名な労働教育センターがある大学で、日本でも労働運動に関心のある研究者や活動家には良く知られている大学である。このような経緯で同じ関心を持っている二人が出会ったことにより、このプロジェクトの構想が急速に膨らんでいったのである。人と人の出会いが次々につながって、それが大きな運動に発展していくという、好例であろう。

当初日本側の参加者たちからも、経済のグローバル化が進む中、働く女性たちは国境を越えてネットワークを作る必要があるとしても、なぜ「日米」なのかという質問がよくでた。これは、ワークショップの助成金を申請した基金が、日米センター（CGP）という日米共催プログラムを助成する機関だったからだ。日米に限定せず、当然アジアにおける、また世界における女性労働者のネットワークを視野に入れている。今回のプロジェクトでも、第二回目には、香港からのファシリテーターとして、メーベル・オーさんをお迎えするなど、日米の枠を超えたネットワークの展開が始まっている。さらに、このプロジェクトに参加しているメンバーの有志は、2005年10月に韓国の女性労働者の組織や団体を訪問し、働く女性たちの組織化と教育に関する意見交換をしてきた。その際、韓国でも日本で作ろうとしているような教育マニュアルを作って組織化を進めてきていることがわかった。民主的な組織化を進めるために必要とされている教育内容は、基本的に各国共通していることが認識されることになった。

直面する問題と教育マニュアル：

女性ユニオン東京は、第一回ワークショップで自分たちが直面する問題について報告することが求められていたので、2004年の夏合宿を利用して自分たちの活動の問題点を徹底的に検証した。その結果、「一人ひとりの組合員のエンパワーメントをして有機的なネットワークを作っていくことができていない」という結論に達した。具体的には、特定のスタッフへの依存が大きく、一人ひとりのエンパワーメントになっていないこと、若いメンバーも増えているのに、経験を伝えることができていないことなど、ユニオン拡大の障害物が明らかになった。個別紛争の処理に終わっている活動をみなおして、社会的に大きな影響力を発揮できるようになるためには、一部のスタッフに依存するのではなく、メンバー同士が教育しあえるような教材マニュアルが必要であるという気づきにつながった。

ここでいう教育マニュアルというのは、女性労働者の組織メンバーが活動的で連帯感がありエンパワーされたメンバーとなるために、必要な基礎的スキルや知識を提供する教育プログラムのことである。民主的な組織では、メンバーに必要な情報はみなで共有することが不可欠である。移民の国アメリカでは、異なる背景の人たちが行動を同じくするために、手順など明文化したマニュアルが必須であったので、これまで膨大なマニュアル作りのノウハウが蓄積されてきた。アメリカの大学では、労働教育センターのある大学もあり、労働組合のメンバーのための教育プログラムを発展させてきた。また、女性労働者も自分た

ちのための教育マニュアルを作り、スキルを身につけるやり方に磨きをかけてきた。このプロジェクトは、日本の女性労働者の組織や団体のメンバーがそのノウハウを学び、自分たちのための教育マニュアルをつくることを目的としている。そして、そのマニュアルづくりという実践を通して、自らがエンパワーし、そのことによってそれぞれの組織内のメンバー間のネットワークを深め、さらに組織間のつながりを深めるといったダイナミックな企画でもある。

日本側の参加者：

今回の女性労働者ネットワークに参加している組織団体は、女性の労働組合だけではなくて、女性労働者のための団体も含まれている。日本からの参加者は次のような団体や組織に所属している：働く女性の人権センターいこる、北海道ウィメンズユニオン、女性ユニオンプラス、女性ユニオン東京、アジア女性資料センター、名古屋ふれあいユニオン、せんしゅうユニオン、おんな労働組合関西、均等待遇アクション21、CAWネットジャパン、女性労働問題研究会、ワーキング・ウイメンズ・ヴォイス、そして出版メッツ。北海道から九州までをカバーする女性労働者のNPOが、このように一同に会するなど、3、4年前には想像もできないほどの画期的なことであった。

Ⅲ. 第一回ワークショップ in デトロイト

第一回ワークショップは、2004年9月24日と25日の二日間、ゴットフリードさんが教鞭をとるウェイン州立大学で開催された（当日のスケジュールは、文末に添付）。第一回目のワークショップでは、日本と合衆国間で情報の共有をはかることが第一義的な目的であった。日本からの参加者は、女性ユニオン東京、おんな労働組合関西、女性の人権センターいこる、北海道ウィメンズユニオン、ワーキング・ウイメンズ・ヴォイス、女性労働問題研究会など新しい運動を担ってきた組織で中心的に活躍している人たちであった。合衆国からの参加者も、労働組合女性連合（CLUW）のG. ジョンソン、全米勤労女性協会（9to5）のL. メリック、全米自動車労働女性部のC. スイフト、そしてウイメンズ・ユニオン・スクールのT. イーウィング、デュポール大学労働教育プログラムのE. ローゼンバークなど、そうそうたるメンバーであった。

一日目はザカリア・ウォルツシュさんが冒頭に「合衆国と日本の労働運動の再構築について」というタイトルで熱く語り、「合衆国における女性労働者の意識」というセッションでは、合衆国における女性労働者に関する労働運動の歴史的背景などの報告があった。午後の「日本の女性労働者の労働組合」というセッションでは、日本の労働組合、特に女性労働組合の現状について、日本側から報告があった。

二日目には、「合衆国の女性労働問題」と、「日本の女性労働問題とその挑戦」というセッションを設けて、それぞれの国で女性労働者が直面している問題について理解を深めた。最後に、「合衆国における労働教育と労働組合組織力開発」のセッションを設け、労働教育のプロたちからそれぞれの特色ある活動について報告してもらったが、日本の女性ユニオンや女性団体が自らの活動を活性化させるために有効な手段について多くの示唆を得ることができた。

日本側の参加者が得た大きな成果は、二つあった。一つは、このワークショップに参加するために、各女性ユニオンや団体が、それぞれの直面する問題点を検討する作業を行ったことである。特に女性ユニオン東京は、夏の合宿を使ってこれまでの活動における問題点を徹底的に検討した結果、自分たちの抱える問題を明確にすることができた。もう一つは、

合衆国における具体的な活動を知ることによって、自分たちの直面する問題を相対化することができた点である。

IV. 第二回ワークショップ in 東京

第二回目は、2005年7月22日から24日まで、ICUで開催された。この第二回目のワークショップが開催されるまでの10ヶ月間に、日本では参加メンバーを増強して、2004年11月と2005年3月に二回会合を開催した。そして、教育マニュアルの具体的なテーマを、コミュニケーションスキル、エンパワメントスキル、そして組織化スキルの三つに絞り込んだ。この三つのテーマにそって、合衆国から三人のファシリテータを迎えて、それぞれのミニワークショップを開催し、教育マニュアルについて実体験することになった（ワークショップのスケジュールは、本文末に掲載）。

各ファシリテータは、それぞれ担当するテーマに関し、事前に適切な教育方法と教材を準備し、ワークショップの日本側参加者は双方向的な教育、徹底的に参加型教育の実践を体験した。そして、このワークショップに実際に参加することによって、教育マニュアルを作成することとはどういうことなのか、どういうふうにもニュアルは使えるのか、自分たちはなにをやるようとしているのか、初めてはつきりと把握することができた。

小グループにおける参加型教育の実践なので、各グループのサイズは通訳をいれて10人以下であった。コミュニケーションスキルのグループ（ファシリテータ：E. ローゼンバーグ）は、人前で話す話し方から、組織の内部でのファシリテーションスキル、また差別と戦うということを攻撃的にではなくアートで表現し、コミュニティの人たちに訴える方法など、実践を通して学ぶことができた。第二の組織化グループ（C. エーデルソン）では、組織を活性化し拡大していくためのスキルとして、一対一のコミュニケーションスキルを身につけ、組織のメンバー間のつながりを深く掘り下げ、そして若い人たちや新メンバーが自由に活動できるような場を造っていくためのスキルを実践した。そして、エンパワメントスキルのグループ（T. イーウィング）では、参加型成人教育で最も重要なことは参加者の「尊厳」の重視にあることが強調され、ブレインストーミング、モノローグとダイアローグ、共同作業などを体験しながら、それぞれの人がもつ可能性を引き出す方法を学んだ。

二年間の助成金を得て開催する3回目のワークショップは、2006年3月にICUで行うことが決まっている。そのときには、今回ミニ・ワークショップにわかれて経験したワークを、今度は全員が経験し、それをもとに日本の現状にあったトレーニング・プログラムの作成に向けて、試行錯誤をはじめることになるだろう。2日間半のワークショップでは十分に参加型教育を理解しえなかったところもあるので、三回目のワークショップではファシリテータの人たちにその点を中心にフォローアップしてもらい、もう少し深く理解できる機会になるよう計画する予定である。

V. 2回のワークショップに参加して：

このプロジェクトの目的は、女性労働者の組織や団体がさらに組織を活性化し拡大させていく手段としての教育マニュアルを自分たちの手で作ることだ。そのために、第二回のワークショップでは合衆国からプロのファシリテータを呼び、小グループによる参加型の教育実践を体験する機会をもった。このワークショップの一番の成果は、参加者自身がエンパワーされ、コミュニケーションスキルをつけ、組織の拡大や活性化は1対1の関係性、信

頼関係を築くことから始まることを、自らのケースとして実感したことであろう。参加者が実践的な教育経験から体得したスキルは、日本の現状に合った教育マニュアルづくりに反映されるに違いない。

この教育マニュアル作りという共同作業を通して、全国の女性ユニオンや団体が顔の見える関係を作ることができた。今後この関係が、二年間のワークショッププロジェクトが終了したあともさらに拡大し、柔軟でかつ強固な全国的ネットワークの展開につながっていくことが期待される。

The US-Japan Working Women' s Workshop Project: Report on the First and Second Workshops

I. Introduction

The US-Japan Working Women' s Workshop Project, hosted jointly by Wayne State University and ICU, was started in 2004 with funding from the Japan Foundation's Center for Global Partnership (CGP). In 2005 we also received a grant from the Japan ICU Foundation. Our first workshop was held in September 2004 at Wayne State University in Detroit and the second in July 2005 at ICU. Here, I would like to summarize and report on the results of these two workshops before the third workshop which is scheduled for March 2006 at ICU.

II. Background

Objectives of the Project:

This project began with two major objectives - (1) to set up and build on an international network of female workers and (2) to strengthen each individual group within the network. As part of its aim to be of practical benefit to all its participants, the project focused on the creation of a learning manual through which the members could learn from each other.

Origins of the Project:

Working conditions for women have rapidly deteriorated with the rise of economic globalization and deregulation of the workplace, especially after the 1990s. Already, over 50% of the female workers in Japan are not in full-time employment. Moreover, the trend toward fixed-term employment in recent years has led to an increase in jobs of poor stability and low pay. Although men have also been affected by deregulation, the effects on women have been much worse. Furthermore, in this world of rapid globalization, there is an increasing need for working women to form networks across national borders in order to improve their working environment.

Working women's groups in Japan are faced with problems which limit the expansion of their organizations and their activities, such as time and energy being spent mainly on resolving the problems of individual workers and the stagnation of new membership. For example, even the Tokyo Women' s Union (arguably one of the most visible and active unions for women in Japan) has less than 250 members. Women's unions and other groups which support working women are organizations that originally broke away from the existing labour unions and initiated new activities. However, funding and resources are limited, skills and knowledge are unevenly distributed and there are problems with the specification of people for resolving individual cases. Despite having started off on an equal footing, the building of democratic, vital organizations has become plagued by problems from within, such as unequal power relations and the resignation of members upon the resolution of their own problems. Thus, there is a growing movement to find ways to overcome such problems and to revitalize these organizations.

This project was realized through the meeting and collaboration of Wayne State University lecturer Heidi Gottfried and Solidarity Ink founder Ann Zacharias-Walsh,

with funding secured from the CGP. The initial idea for the project was conceived by Ms. Zacharias-Walsh when she became interested in the activities of the Tokyo Women' s Union which were so different to her own experience with labour movements in the U.S. While striving to understand the issues faced by the Tokyo Women' s Union, she began to wonder whether the learning programs developed by American labour movements could be used in Japan. She also felt that there could be much that American women' s workers could learn from the Japanese experience. I still recall her earnest proposal to the Tokyo Women' s Union, for which I acted as interpreter, on a hot summer' s day in 2002.

Wayne State University is famous in the U.S. for its Labour Education Center and is even well known in Japan by researchers and activists involved in labour movements. I introduced Ms. Zacharias-Walsh to Dr. Gottfried who I knew was at that time involved in comparative research of Japan, the U.S. and Germany, in the rising trend toward irregular women' s employment such as part-time work. From there, the project continued to grow and develop. Thus, this project is a prime example of how great movements can be fostered through successive encounters and connections between individual people.

So why 'US-Japan' ? While recognizing the need for working women to build networks across national borders in a world of increasing economic globalization, this was a question asked by many of the Japanese participants in the initial stages of the project. This was because funding received for the project was from the US-Japan Center (CGP), an organization which funds joint US-Japan programs. However, the perspective is not limited simply to Japan and the U.S., but considers networks of working women in Asia and the world. Thus, this project also initiated the development of networks beyond the US-Japan framework, for example, by welcoming a facilitator from Hong Kong, Mabel Au in the second workshop. Furthermore, a number of our participants visited women' s labour organizations in Korea in October 2005 to exchange views on working women' s organizations and education. The group learnt that there was a similar movement in Korea to develop learning manuals and promote labour organizations. They also realized that the kind of learning programs necessary for the development of democratic organizations are essentially the same in each country.

Issues Addressed/ Learning Manual:

For the first workshop, the Tokyo Women' s Union was asked to report on the various problems they faced. At a 2004 summer retreat, they examined in detail the problems of their activities and came to the conclusion that they lacked the empowerment of each of its members to develop a well-structured, systematic network. The obstacles to the expansion and growth of the union became clear. There was a tendency to depend too much on specific members rather than a focus on empowering each individual member, and experience was not effectively passed on to the growing numbers of younger members. It was necessary to rethink their activities which were centered too much on resolving individual disputes and to consider how the union could have greater influence and impact in society at large. For this aim, they realized that there was a need for a learning manual which could be used by their members to teach each other.

The 'learning manual' discussed here refers to an educational program which teaches the fundamental skills and knowledge to develop members in working women's organizations who are vital, active, and empowered with a sense of solidarity. In a democratic organization, it is essential for all the members to share the information necessary to themselves. The U.S., being a nation comprised of immigrants, has accumulated extensive know-how on manual creation through their need to find ways for people of diverse backgrounds to work together. Many American universities have labour education centers and have developed education programs for labour organizations. Moreover, working women have also created and improved upon learning manuals for themselves. This project aims to pass on that know-how to working women's organizations and groups in Japan so that they can create their own learning manuals. It is a dynamic project which will empower each of its participants through the practical experience of the manual creation process; this will then lead to the strengthening of networks between members within their groups and ultimately between the groups as well.

Participants from Japan:

The groups participating in this working women's network project are not restricted to women's labour unions but also involve groups for working women. The Japanese participants come from diverse groups: Ikoru Center for Working Women's Rights, Hokkaido Women's Union, Women's Union Plus, Tokyo Women's Union, Asia Women's Resource Center, Nagoya Fureai Union, Senshu Union, Kansai Women's Labor Union, Equal Treatment Action 21, CAW Net Japan, The Society for the Study of Working Women Issues, Working Women's Voice, Publication METS. Thus, the project brings together NPO's of working women throughout the nation from Hokkaido to Kyushu. It is a great initiative which could not have been imagined three or four years ago.

III. First Workshop, Detroit

The first workshop was held over two days, September 24 and 25, 2004, at Wayne State University (the workshop schedule is attached below). The primary objective of this first workshop, was the sharing of information between Japan and the U.S. Participants from Japan were those who have been taking a central, active role in new movements, including members of the Tokyo Women's Union, Kansai Women's Labor Union, Ikoru Center for Working Women's Rights, Hokkaido Women's Union, Working Women's Voice, and The Society for the Study of Working Women Issues. Participants from the U.S. included many eminent names such as Gloria Johnson from the Coalition of Labor Union Women (CLUW), Linda Merrick from the National Association of Working Women (9 to 5), Carla Swift from the Women's Division of the United Auto Worker's Union, Tess Ewing from the Women's Union School, and Emily Rosenberg from the DePaul University Labor Education Program.

On the first day, Ms. Zacharias Walsh first spoke on the topic "Rethinking Labor Movements in the U.S. and Japan." This was followed by a session, "Working Women's Awareness in the U.S.", at which we learned of the historical background of working women's labor movements in the U.S. In the afternoon session, "Working Women's Labor Unions in Japan", the Japanese delegation spoke about labor unions, particularly women's labor unions, in Japan.

The sessions on the second day, "Working Women's Issues in the U.S." and "Issues and Challenges for Working Women in Japan", aimed to further understanding of the problems faced by working women in the respective countries. At the final session, "Development of Labor Union Organizations and Labor Education in the U.S.", professional labor educators informed us of their particular activities, which were very helpful in prompting new ideas on effective ways to fuel the activities of Japanese women's unions and organizations.

The workshop had two significant outcomes for the Japanese participants. Firstly, in preparing to participate in this workshop, each women's union or organization had to go through a process of examining the problems they faced. The Tokyo Women's Union in particular were able to reach a clearer understanding of their own situation at their summer retreat when they completely overhauled the problems of their organization. Secondly, by gaining concrete, specific knowledge of the U.S. situation, the groups were able to see their own problems from a more relative perspective.

IV. Second Workshop, Tokyo

The second workshop was held at ICU from July 22 to 24, 2006. Ten months before the workshop, more participants were recruited within Japan and meetings were held in November 2004 and March 2005. The themes for the learning manual were narrowed down to Communication Skills, Empowerment Skills, and Organizational Skills. Three facilitators were invited from the U.S. to conduct mini practical workshops on each theme for the learning manual. (The workshop schedule is attached at the end of this report)

Each facilitator came prepared with appropriate learning methods and materials for their particular theme. The Japanese participants of the workshop were not only given a taste of a new kind of participatory learning experience, they also finally gained a clear understanding of what was involved in creating a learning manual, how it could be used, and what it was that they were actually trying to achieve.

It was a hands-on learning experience based on small groups consisting of up to ten members, including the interpreters. The Communications Skills Group (facilitated by E. Rosenberg), focused on the practical application of public speaking skills and facilitation skills within an organization, as well as learning how to fight discrimination through creative expression rather than aggression and how to appeal to people in the community. The Organizational Skills Group (facilitated by C. Edelson) focused on ways to expand the members and activities of organizations by gaining one-on-one communication skills and strengthening the bonds between members within groups, and thereby creating a place in which young people and new members can be free and active. The Empowerment Skills Group (facilitated by T. Ewing). In participatory or hands-on adult education, the 'dignity' of participants is what is most emphasized. The group learned how to bring out the potential of each individual by practicing brainstorming, monologues and dialogues, and teamwork.

Funding for the project was granted for a period of two years. The third workshop will be held in March 2006 at ICU. This time all the participants will experience what was previously done in small groups and this will be directed toward developing a training program to suit the current Japanese situation. Thus, it marks the beginning

of an endeavour which will involve a great deal of trial and error. Since it was difficult to fully understand the concept of hands-on learning in a workshop of just two and a half-days, we would like the facilitators to follow up and focus on this at the third workshop.

V. Reflections on the First and Second Workshops

The aim of this project was to create a learning manual by and for working women's organizations as a means of expanding the groups and their activities. Therefore, the second workshop provided an opportunity for a practical learning experience in the form of small participatory groups and the help of professional facilitators from the U.S. The greatest achievement of this workshop was that the participants themselves were empowered, gaining valuable communication skills and learning for themselves that the expansion of their groups and their activities begins with the development of trust and one-on-one relations amongst themselves. The skills gained by the participants through this practical learning experience will undoubtedly be reflected in the creation of a learning manual adapted to the Japanese situation.

Through the co-operative work of creating a learning manual, women's unions and groups across the nation were able to develop relationships based on face-to-face contact. We hope that even after the end of this two year workshop project, these relations will continue to expand and grow into a strong, dynamic national network.

Kazuko Tanaka, CGS Director

働く女性の日米ワークショップ①プログラム (2004年9月24日～25日 於 デトロイト・ウエイン州立大学)

第1日目 9月24日

9:00-9:10 歓迎のあいさつ マーガレット・ウインターズウエイン州立大学副学長
9:10-9:15 はじめに ハイディ・ゴットフリート、ウエイン州立大学
9:15-9:30 働く女性の日米ワークショップ：合衆国と日本の労働運動の再構築について
アン・ザカリアス・ウォルシュ
9:30-10:15 労働運動フェミニズムの歴史 ドロシー・スー・コブル ラトガース大学
10:15-10:30 質疑応答・討論
10:30-10:45 コーヒーブレイク

合衆国における女性労働者の意識

10:45-10:50 はじめに セッション議長 エリザベス・ファウ
10:50-11:15 労働組合女性連合 [CLUW] グロリア・ジョンソン
11:15-11:40 全米勤労女性協会 [9 to 5] リンダ・メリック
11:40-11:50 質疑応答
11:50-12:15 全米自動車労組女性部 カーラ・スイフト
12:15-1:00 質疑応答・討論
1:00-2:15 昼食

日本の女性労働者の労働組合

2:15-2:20 はじめに セッション議長 田中かず子 日本とアメリカの労働組合の比較対
照 木下武男 女性労働問題研究会
2:45-3:10 女性ユニオン東京 伊藤みどり
3:10-3:35 おんな労組 [関西]：いこる 屋嘉比ふみ子・赤羽佳代子
3:35-3:50 質疑応答
3:50-4:00 コーヒーブレイク
4:00-4:25 北海道ウイメンズユニオン 近藤恵子
4:25-4:50 ワーキング・ウイメンズ・ボイス 佐崎和子・成瀬穂実子
4:50-5:00 質疑応答・討論
5:00-5:15 第1日目のまとめ

夜：ウエイン州立大学労働博物館（女性と社会正義展示会場）の見学・レセプション

第2日目 9月25日

合衆国の女性労働問題
9:00-9:05 はじめに セッション議長 ハイディ・ゴットフリート
9:05-9:30 同一価値労働同一賃金 ロニー・スタインバーグ バンダービルト大学
9:30-9:55 セクシュアルハラスメント ルイーズ・フィッツゲラルド
イリノイ大学、アパナーシャンペンキャンパス
9:55-10:10 質疑応答
10:10-10:35 請負、パートタイム労働 シンシア・ネグレイ ルイビル大学
10:35-10:45 質疑応答・討論
10:45-11:00 コーヒーブレイク

日本の女性労働問題とその挑戦

- 11:00-11:05 はじめに セッション議長 アン・ザカリアス・ウォルシュ
 11:05-11:25 スナックショット 日本の女性労働者の現状 居城舜子
 11:25-11:50 ケーススタディ 女性ユニオン東京の成長と生き残りへの阻害と挑戦 谷恵子
 11:50-12:15 質疑応答・討論
 12:15-1:30 昼食休憩

合衆国における労働者教育と労働組合組織力開発

- 1:30-1:35 はじめに セッション議長 ミッシェル・フェクトウ
 1:35-2:00 女性の労働組合学校 テス・イーウイング マサチューセッツ大学
 2:00-2:25 大学における労働教育 エミリー・ローゼンバーク デュポール大学労働教育プログラム
 2:25-2:45 質疑応答
 2:45-2:55 コーヒーブレイク
 3:00-3:25 エール大学事務職労働組合 [HERE Local 34] 代表 ローラ・スミス
 3:25-3:50 全米電機ラジオ機械工労組 [UE] リー・フリード
 3:50-4:30 質疑応答・ディスカッション
 4:30-4:45 コーヒーブレイク
 4:45-5:15 まとめと次の会議について

働く女性の日米ワークショップ②プログラム

(2005年7月22日～24日 於 国際基督教大学)

第1日目7月22日

- 9:00-9:30 登録：本部棟
 9:30-10:30 開会 司会 田中かず子 (国際基督教大学ジェンダー研究センター長)
 9:30-9:45 開会あいさつ 田中かず子
 9:30-9:45 歓迎のあいさつ ビル・スティール (ICU 教養学部長)
 9:45-10:00 参加者自己紹介
 10:00-10:30 プロジェクトの概要 アン・ザカリアス・ウォルシュ
 (ソリダリティーインク, 国際基督教大学ジェンダー研究センター)

グループワークショップ

- ・第1グループ:基本コミュニケーションスキル;エミリー・ローゼンバーク [ERBII・301号室]
 ・第2グループ:組織化のための基本スキル;キャロル・イーデルソン [ERBII・201号室]
 ・女性のエンパワーメント;テス・ユーイング [ERBII・304号室]
 10:45-12:30 グループワークショップ:セッション1
 12:30-1:30 昼食 (学内)
 1:30-5:15 グループワークショップ:セッション2

第2日目7月23日

- 9:00-12:00 グループワークショップ:セッション3
 12:00-1:00 昼食 (学内)
 1:00-3:30 グループワークショップ:セッション4
 3:45- 到達した成果の報告及び今後の作業計画の発表
 司会 ハイディ・ゴットフリート (ウエイン州立大学)

- 3:45-4:15 第1グループの報告
 4:15-4:45 第2グループの報告
 4:45-4:50 通訳休憩
 4:50-5:20 第3グループの報告
 5:20-5:45 オープン・ディスカッション (作業計画へのフィードバック)
 5:45-6:15 まとめと閉会 (次回へ持ち越し) ハイディ・ゴットフリート

第3日目7月24日

- 9:00-11:30 アジアの女性団体のネットワーキング
 司会 メーベル 區美賓 (オー・メイ・ポー) 香港ピープル・アライアンス (HKPA)
 11:30-12:00 まとめと閉会 (次回への持ち越し)
 司会 アン・ザカリアス・ウォルシュ

The US-Japan Working Women' s Workshop 1st program

Date: 24-25 September, 2004

Venue: Wayne State University, Detroit

Day 1 Friday, September 24

Introductions

9:00-9:10 Welcome :Margaret Winters, Associate Provost, Wayne State University

9:10-9:15 Introduction: Heidi Gottfried, Wayne State University

9:15-9:30 US-Japan Working Women' s Workshop: Reinventing Labor Movements in the U.S and Japan, Ann Zacharias-Walsh

9:30-10:15 History of Labor Feminism Dorothy Sue Cobble, Rutgers University

10:15-10:30 Q & A/Discussion

10:30-10:45 Coffee Break

Working Womaen' s Organizations in U.S.

10:45-10:50 Introduction : Session Chair Elizabeth Faue

10:50-11:15 Gloria Johnson, Coalition of Labor Union Women [CLUW]

11:15-11:40 Linda Merrick, National Association of Working Women[9 to 5]

11:40-11:50 Q & A

11:50-12:15 Carla Swift, United Automobile Workers Women' s Department

12:15-1:00 Q & A/Discussion

1:00-2:15 Lunch

Labor Unions for Working Women in Japan

2:15-2:20 Introduction: Session Chair Kazuko Tanaka,

2:20-2:45 Comparing /Contrasting Japanese and American Unions:
Takeo Kinoshita, Society for the Study of Working Women

2:45-3:10 Midori Itoh, Women' s Union Tokyo(WUT)

3:10-3:35 Fumiko Yakabi and Kayako Akabane, Kansai Women' s Union; ICORU

3:35-3:50 Q & A

3:50-4:00 Coffee Break

4:00-4:25 Keiko Matsushita, Sapporo Women' s Union

4:25-4:50 Kazuko Sazaki and Emily Naruse, Working Women' s Voice; 21st Century Union

4:50-5:00 Q & A/Discussion

5:00-5:15 Wrap-up of Day 1

Evening: Reception and guided viewing of the WSU Labor Archive' s exhibit on women and social justice

Day 2, Saturday September 25

Working Women' s Issues in the U.S.

9:00-9:05 Introduction: Session Chair, Heidi Gottfried

9:05-9:30 Comparable Worth : Ronnie Steinberg, Vanderbilt University

9:30-9:55 Sexual Harassment: Louise Fitzgerald, University of Illinois at Urbana-Champaign

9:55-10:10 Q & A

10:10-10:35 Contract, Part-time Labor: Cynthia Negrey, University of Louisville

10:35-10:45 Q & A/Discussion

10:45-11:00 Coffee Break

Working Women' s Issues and Challenges in Japan

11:00-11:05 Introduction: Session Chair, Ann Zacharias-Walsh

11:05-11:25 Snapshot: Current situation of working women in Japan:

Shunko Ishiro, The Society for the Study of Working Women

11:25-11:50 Case Study: Obstacles and Challenges to WUT' s Growth and Survival :

Keiko Tani

11:50-12:15 Q & A/ Discussion

12:15-1:30 Lunch Break

Labor Education and Union Skills Development in U.S.

1:30-1:35 Introduction: Session Chair, Michelle Fecteau

1:35-2:00 Women' s Union Schools: Tess Ewing, WILD

2:00-2:25 University-Based Labor Education: Emily Rosenberg, Depaul University Labor Education Program

2:25-2:45 Q&A/ Discussion

2:45-2:55 Coffee break

3:00-3:25 Laura Smith, UNITE-HERE Local34

3:25-3:50 Leah Fried, United Electrical Workers of America

3:50-4:30 Q & A/ Discussion

4:30-4:45 Coffee Break

4:45-5:15 Summary and Next Conference

The US-Japan Working Women' s Workshop 2nd program

Date: July 22-24, 2005

Venue: International Christian University

Day 1

July 27, 2005

9:00-9:30 Registration: Administration Building

9:30-10:30 Opening ceremony

Chair: Kazuko Tanaka, Director, ICU Center for Gender Studies

9:30-9:45 Opening Address Kazuko Tanaka

9:30-9:45 Welcome Address Bill Steele, Dean of the College of Liberal Arts, ICU

9:45-10:00 Introduction of participants

10:00-10:30 Project Overview

Ann Zacharias Walsh, Solidarity Ink and ICU Center for Gender Studies

Group Workshops

• Group 1 : Essential Communication Skills; Emily Rosenberg ; [Rm 301, ERBII]

• Group II : Essential Organizational Skills ; Carol Edilson [Rm 201, ERBII]

• Group III : Women' s Empowerment ; Tess Ewing [Rm 304, ERBII]

10:45-12:30 Group Workshops : Session 1

12:30-1:30 Lunch (on campus)

1:30-5:15 Group Workshops : Session 2

Day 2

July 23

9:00-12:00 Group Workshops : Session 3

12:00-1:00 Lunch (on campus)

1:00-3:30 Group Workshops : Session 4

3:45- Presentations by each group: Report on results and future prospects

Chair: Heidi Gottfried, Wayne State University

3:45-4:15 Group 1 Report Summary of Theme

4:15-4:45 Group 2 Report Summary of Theme

4:45-4:50 Break for Interpreter

4:50-5:20 Group 3 Report Summary of Theme

5:20-5:45 Open discussion (feedback on plan of action)

5:45-6:15 Summary and Closing Address (Carry over to next workshop) :
Heidi Gottfried

Day 3

July 24

9:00-11:30 Networking for Women' s Associations in Asia

Chair: Mabel Au, Hong Kong People' s Alliance (HKPA)

11:30-12:00 Summary and Conclusion (Prospects for the next workshop)

Chair: Ann Zacharias Walsh